



# 授業のヒント

今回は、聞くことの練習方法を紹介します。  
特に音声テープを使った活動について紹介します。

## テーマ テープ教材の使い方(その1)

目的・教えること もくてき おし
<ul style="list-style-type: none"> <li>聞く力を高める き 5から たか</li> <li>意味や内容の聞き取り方 い み ないよう き と かた</li> </ul>
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級から中級 じょきゅう ちゅうきゅう
クラスの人数 にんずう
何人でも なんにん
準備するもの じゅんび
音声テープの教材 おんせい きょうざい
テープレコーダー、タスクシート

ふつうだれかのお話を聞くときは、目的を持って聞いています。お店で品物の値段を聞くときには、値段を知ることが目的なので、値段に注意して聞くはず。また、ニュースを聞くときも自分の必要に合わせて「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」などについて注意して聞きます。

具体的な教材としては『楽しく聞こう』『ニュースで学ぶ日本語』などがあります。

みなさんのクラスでは(1)、(2)のどのタイプのテープを使いますか。今回はとくに(2)の「内容を聞き取るためのテープ」の使い方について見てみましょう。

### テープ教材の利用

海外では日本人が話すのを聞く機会も少なく、テレビやラジオなどでもなかなか生の日本語の音に触れる機会は少ないでしょう。日本人が周りにいなくても、また、発音に自信がなくても、テープ教材をじょうずに使って学習者の聞く力を高めることはできます。

今回は、テープ教材の特徴やその使い方を知って、効果的な授業をしてみましょう。

### 教材の種類

テープ教材にもいろいろな種類があります。そして、教材の種類によってその目的や使い方も違います。

(1) 音を聞き分けたり発音練習をするためのテープ  
これらのテープは、日本語の学習を始めた初級段階の学習者のために音やアクセントなどを聞き分けたり、単語を聞き取ったり、テープの発音のまねをする練習用のテープです。練習のためによく似た音が比べられるようにペアに並べた(ミニマルペア)教材もあります。

具体的な教材としては『日本語発音』(国際交流基金日本語国際センター)などがあります。

(2) 内容を聞きとるためのテープ  
これらのテープは会話やニュースなどを聞いてその内容を理解することを目的としています。

### タスクについて

内容を聞き取るためのテープにはふつう、タスク(テープの内容に関する問題)がついています。聴解練習のタスクは、ふつうの生活の中で聞くときと同じように、学生に聞く目的を与えています。教師は、聞かせたい内容によって、タスクを変えることもできます。同じテープを使って、単純な情報を聞き取らせる簡単なタスクもできるし、複雑な内容を聞き取らせたり考えさせたりする難しいタスクもできます。教材にあるタスクだけでなく、みなさんが自分で考えたタスクをつけることもできます。

まず、初級の聴解タスクを考えてみましょう。

次のような内容のテープだったら、どんな情報を聞きとらせたらいいでしょうか。質問を考えてみましょう。

- A: いらっしゃいませ。  
B: ハンバーガーを一つと、フライドポテトを一つと、コーヒーを二つください。  
A: はい、ハンバーガーを一つと、フライドポテトを一つと、コーヒーを二つですね。  
B: はい。  
A: おまちください。ぜんぶで、610円です。  
B: はい。  
A: はい、ありがとうございました。

『教科書を作ろう れんしゅう編』  
国際交流基金日本語国際センター  
「3 - 4 ハンバーガーの店」



どんな質問ができますか。「話している人は何人ですか。」「どこで話していますか。」「だれとだれの会話ですか。」「何を注文しましたか。」「全部でいくらですか。」など、いろいろな情報を聞き取らせることができるでしょう。学生にちょっと考えさせる問題として、「このお客さんは、何人分注文しましたか。」などというタスクもいいかもしれません。

聞くという活動は一人一人がするものですから、学生が自分で答えを書けるようにタスクシート（タスクの答えを書く用紙）を作りましょう。

・タスクシートの例

ハンバーガーショップです。テープを聞いてください。

	なにを	いくつ
お客さんは何をいくつ注文しましたか。		
ぜんぶでいくらでしたか。		えん

この例はタスクを日本語で書きましたが、初級の学生は読むのがたいへんかもしれません。聞く力をのばすことが目的なので、タスクはみなさんの国のことばで書いてもいいでしょう。学習が進んで学生が日本語を読めるようになったら簡単な日本語で書いてください。

聴解の授業の進め方

聞く練習を効果的に進めるためには、ただテープを聞かせるのではなくて、聞かせる前や、聞かせた後の指導も大切です。

聞かせる前にすること

●場面の理解

これから聞く会話がどのような場面で話されているかを説明します。上の場面であれば、自分の国にあるハンバーガー屋のことを言わせたりして登場人物や会話の内容について推測させます。これは、自分の国のことばですればいいでしょう。



●ことばの確認

場面と関係のある日本語のことばを紹介します。例えば買い物の場合であれば、そこで必要な表現、ねだんの言い方など、これから聞く会話の理解に必要なことばを確認しておきます。

●タスクの理解

学生に聞く目的を与えるために、タスクを最初に示しておきます。タスクがよくわかったかどうか確認してからテープを聞かせましょう。

聞かせる

ここでは、必要な内容を聞きとることが目的です。タスクに答えられれば、テープで言っていることが全部わかるまで何度も聞かせる必要はありません。

聞かせたあとにすること

・タスクの答えを確認します。

・会話などの他の活動に発展させることもできます。上のテープの例なら、「注文のしかた」の練習や「～をください」などの文型練習につなげることができます。

これは、会話のテープを聞かせるときの一つの例です。今回は「聞く」ことを取り入れたいろいろな練習を紹介します。

参考文献

- 文化外国語専門学校（1994）『楽しく聞こう1 2』凡人社
- コーベニ澤子・高屋敷真人・本間直子（1993）『モジュールで学ぶよくわかる日本語1 2』アルク

このコーナーの担当：古川嘉子（今回から）北村武士（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

